

都市の一つである銀座の、数寄屋橋交差点前ソニービル跡地にシネマとライブラリーが融合した高層建築「NCL」を設計する。都市の形態を空間化し、シネマとライブラリーが衝突・融合し新たにできる空間が影響し合うことで、未来へ新たな提案をする。

Diagonal - 衝突しできるNCL -



2017

2021

00 | 3 CINEMAS

銀座の一角にあるNCLがもつ、普通のシネマとは違う3つのオープンシネマ



壁に映し出すシネマ / 銀座を街ゆく人や2Fのライブラリーからも見える



垂れ壁に映し出すシネマ / 銀座の人々の行き交いを垣間見ながら見える



天井に映し出すシネマ / 寝そべりながら、しゃがみながら見える

01 | CONCEPT I

二つの衝突



ニューシネマライブラリー
NCL = ライブラリー + シネマ

シネマとライブラリーは人に知識を与え、想像を膨らませていくものである。しかしサブスクが発展するなかで、シネマとライブラリーが顕著に現れている。そしてシネマとライブラリーは対極的空間である。

シネマとライブラリーが互いに影響し合う空間に変化し、これからの未来に寄りそう空間を提供する。

03 | MODEL



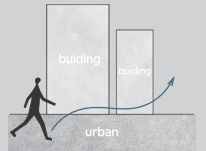
02 | CONCEPT II

都市の垂直性と動

01 二つの衝突を構造体を与える

“都市がもつ垂直性”を壁と柱に
×
“垂直性に相反する斜め”をスラブに

斜めのスラブを用いることで、都市から入ってくる人々の動きを止めずに“回遊性”をつくる

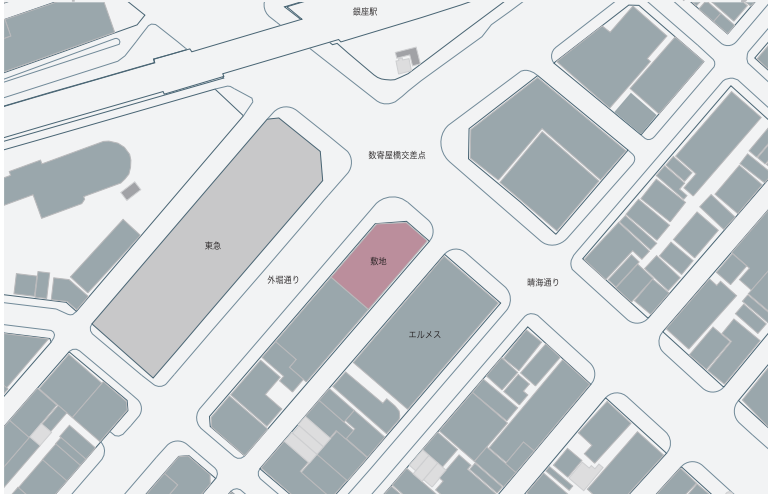


ニューシネマライブラリーのなかで都市の形態を表す



04 | SITE

5-3-1 Ginza Chuo-ku, Tokyo



NCL (ニューシネマライブラリー) を数寄屋橋交差点前のソニービル跡地に設計する

都市の一つである銀座は映画館や映画配給会社が集積する映画の街である。そして高度利用を促す法整備を背景にして、建物が高くなり、より大きく更新されている。また人々が集まり、都市も人も変化し動き続けている。

ここで都市がもつ上に伸びる垂直性と、変化し続ける動の要素をもとに建築を提案する

縦の銀プラの概念からシームレスで斬新な空間設計で銀座の庭
ソニービル

+

ソニーの新たなコミュニケーションの空間をつくり、人々にリアルな体験を感じてもらい、壁や扉を極力排除された公共的な空間
Ginza Sony Park

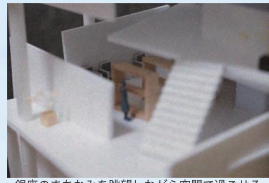
を継承し、発展した提案をする。



05 | SECTION 1/200



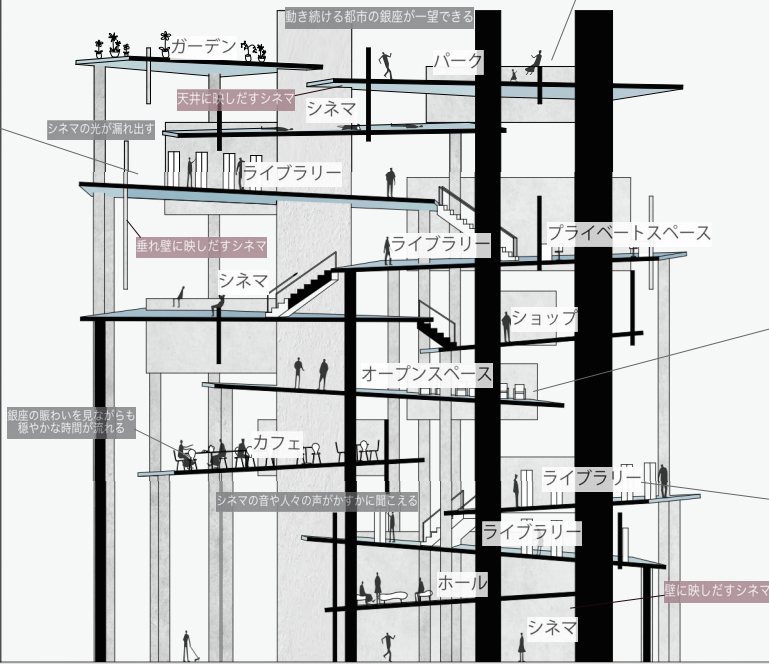
40mから銀座のまちを一望できる
スラブに差し込んだ壁は高さにより座れる



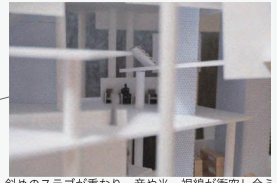
銀座のまちなみを眺望しながら空間で過ごせる



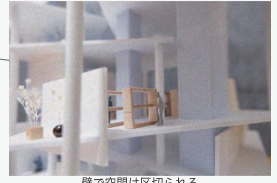
スラブがそれぞれ角度をもつことで
視線が交わり、多方向に分散する



銀座らしい自由度が高い空間が横層している



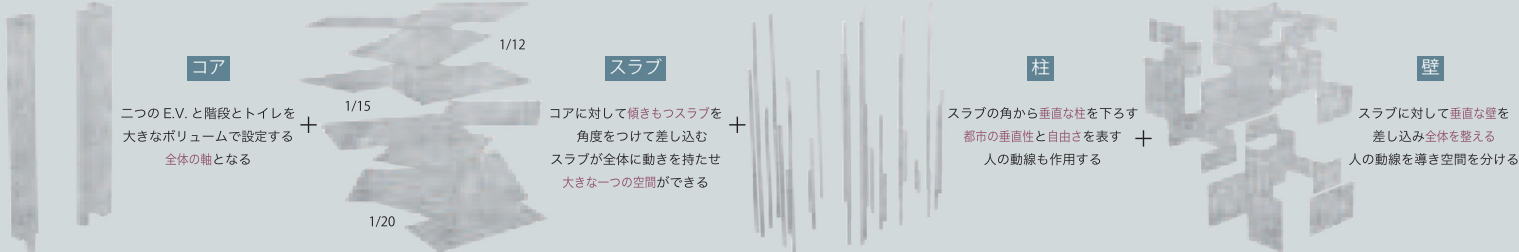
斜めのスラブが重なり、音や光、視線が衝突し合う
オープンスペースは自由な空間が広がっている



壁で空間は区切られる
斜めのスラブが人を回遊させ動かす

0 1 2 5m

06 | DESIGN METHOD

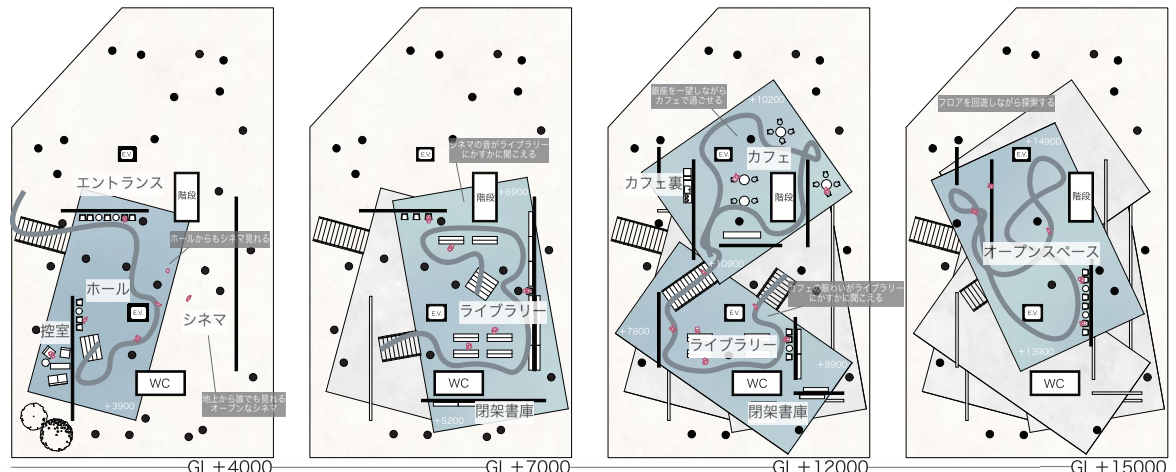
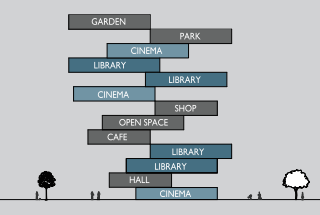


07 | DIAGRAM 08 | PLAN 1/300

0 2 5m

MAIN

一つのスラブで大きな空間をつくる
積層するスラブ / 音や光、視線で
互いの空間を影響し合う



SLAB

斜めのスラブは人を傾きの方向に動かす
傾きが重なる異なるフロアの存在が近くなる
敷地境界線に対して角度をもつことで
三方向に視線が向く

